



# 「赤いグラス」作曲家・牧野昭一さん

## 応援歌プレゼント

### 祝 中標津高ラグビー部「花園行き」

歌謡曲「赤いグラス」の作曲者で、東京から根室支庁中標津町に移り住んだ作曲家牧野昭一さん(七)が、道立中標津高校ラグビー部の応援歌を作詞、作曲し、プレゼントした。同ラグビー部は年末年始に大阪・花園ラグビー場で行われる全国高校ラグビー大会に北海道代表として、二十四年ぶり三回目の出場を決めており、同ラグビー場での力強い援軍になりそうだ。

歌は、「凍れても 吹雪 いても 明日から体当た」自ら指揮棒をふるって吹奏楽部と合唱部を指導する牧野さん(左)

「と、北国の自然を織り込んだ歌詞に、選手を鼓舞するマーチ調の曲、間奏にハミングも取り入れた。十七日には、牧野さんが同校を訪れ、初めて吹奏楽

部と合唱部を指導した。吹奏楽部の二年生福地久美子部長は「演奏しやすいし、選手も頑張れそう」と話した。

牧野さんは、一九九〇年に町のカラオケ大会で、審査員として同町を訪れたのがきっかけで同町を気に入り、昨年九月、移り住んだラグビー部が十月初めに花園行きを決め、「話があれば、応援歌を作ってあげたい」と思っていたところ、先月中旬に同部OB会から依頼された。「ラグビー部のおかげで曲を作ることができて、楽しかった」と、

三日徹夜して書き上げ、吹奏楽用とコーラス用の二通り編曲した。今月に入り、譜面を同校に贈った。応援歌は、町民を集めた二十一日のラグビー部の激励会でお披露目される。